

パンデミック再来に警鐘 尾身氏、青森で講演 体力付け免疫力向上を

2/14 東奥日報



基調講演する尾身氏（東奥日報社）

新型コロナウイルスの最前線で活躍した結核予防会理事長の尾身茂氏が13日、青森市のホテル青森で行われた集団検診従事者向けの研修会で基調講演し「パンデミック（世界的大流行）は必ずまた起きる。普段から体力を付けて免疫力を上げることが大事」と、予防医学の重要性を強調した。

尾身氏は新型コロナウイルス感染症対策分科会の会長を務め、感染症対策に尽力。講演では、日本におけるコロナの死者数が欧米諸国に比べ少なかったことを挙げた上で、感染拡大防止に向けて発令した緊急事態宣言の効果や、最前線で治療に当たった医療従事者を評価した。

近年はさまざまな感染症が出現しているが、発生のメカニズムは従来、地球温暖化などの環境問題が背景にあると考えられていたと説明。人と動物の間に共通する感染症が多いことを指摘し「動物にも感情があり、ストレスがかかると免疫が落ちて体内のウイルスが活性化し、人に感染する」と世界の専門家による新たな考え方を示した。

また、感染症と生活習慣病が密接な関係にあることから「糖尿病患者はがんや心筋梗塞、認知症のリスクが高い。生活指導では肥満の健康リスクをしっかりと伝えて」と呼びかけ、適度なウォーキングで体力増進を図り、免疫力を高める必要性も訴えた。

研修会は、がんや糖尿病など生活習慣病の集団検診受診率向上や効果的な検診の推進に向け、県総合健診センター（中路重之理事長）が開催。各市町村の保健師ら約160人が参加した。